

(様式2)活動調書

応募回数	1 回目 (過去に応募された回: 第 回)	応募団体名	木綿街道振興会
面積	約 10 ha	構成世帯数	91 世帯
戸数	約 120 戸	最寄り駅	一畑電鉄 雲州平田駅

1. 団体の概要

1) 団体の種別 (該当する番号に○をつけて下さい。複数可)

1. 町内会 2. 自治会 3. 管理組合 4. 建築協定に基づく運営委員会 5. NPO法人
6. その他 (任意団体)

※他団体と連携している場合は、その名称・関係を下記にご記入ください。

(名称: 木綿街道まちづくり協議会 関係: 木綿街道まちづくり協定区域に住居がある住民の団体。主に町並み景観保全、イベント等で相互協力)

2) 団体発足年月日

2004 年 4 月 28 日～ (活動開始年月 2001年4月～木綿街道の会)

3) 団体全体の予算

年間 約 470 万円 (その内まちなみの植栽維持管理などに 年間 約 50 万円)

概算の費用をご記入下さい→ 光熱費(10 万円) 施設費(20 万円) 活動費(440 万円) 外部委託費(0 万円)

4) 外部委託費

有・無

委託先名称

委託内容

5) 共有地や共有施設* (共有地・共有施設がある場合には、区域図に図示して下さい)

*…共用地・共用施設とお間違いないようにお気を付け下さい(共有…共同で所有すること、共用…共同で使用すること)

共有地	有・ <u>無</u>	内容	例) 集会所敷地など
共有施設	有・ <u>無</u>	内容	例) 集会所など

6) まちなみのルールなど (規約を添付して下さい)

地区計画	有・ <u>無</u>	開始時期	
建築協定	<u>有</u> ・無	開始時期	2008 年 3 月 26 日(木綿街道まちづくり協定)
緑化協定	有・ <u>無</u>	開始時期	
その他			

2. 維持管理活動の概要 (※用紙を加えてご記入下さい)

再応募の場合は、前回応募時からの進捗状況を明記して下さい

1) まちなみ形成の時期 (開発業者が分かる場合は明記して下さい)

■雲州平田の歴史

島根県出雲市平田町は「雲州平田」と呼ばれ、出雲大社と松江をつなぐ中間地点に位置しており、西暦 1300 年代に近江商人らによって開拓がなされ、商人の町として長く栄えた町です。

戦国時代にはすでに「町割り」と呼ばれる都市計画が行われ現在の平田の町の原型が出来、江戸時代には宍道湖と平田船川運河の水上交通を利用した物資の集散地として繁栄しました。当時松江藩では、外貨獲得の為、綿花の栽培と品質向上をすすめており、出雲平野で栽



培され雲州平田を集散地とする木綿製品は大阪で「雲州平田木綿」と呼ばれてその品質の良さを評価され取引を増やし、江戸時代後期には雲州平田は木綿関連の商人を中心とした文化の全盛時代を迎えました。

明治時代になると木綿から生糸に転換し製糸業が発達し、明治末期には生糸の町として県下第一の工業都市として栄えましたが、その後は海外からの繊維製品に追われ、製糸業は縮小していきました。交通の面においても水上交通が廃れ鉄道へ、さらに道路交通へと変化し、交通の要衝という役割を失い、同時に商店街も衰退の一途をたどることとなります。

昭和50年代には雲州平田の中心商店街である平田本町の道路拡幅が完成し、400mの直線道路の両側に雲州平田特有の建築様式である「切妻妻入塗家造り」の家並みが続き、松江藩の本陣宿である本木佐家の広大な屋敷が偉容を誇っていた雲州平田の中心地は、三階建のコンクリートのビルやアルミサッシを使った店舗が連なる近代的な町に生まれ変わりました。この大事業は当時の価値観の中では、雲州平田の未来を賭けた素晴らしい事業であり、平田本町の住民は数人の反対者を除き、新しくなった町並みに誇りを感じ、この先の発展を疑う者などいなかったのです。

しかし、現在の雲州平田は、人で溢れ賑わった各商店街は疲弊し空き店舗が目立ち、2005年の出雲市との合併により平田市の中心市街地という役割までも失い、活気溢れる商業都市「雲州平田」の住民としての誇りやアイデンティティーも遠い昔のことになり、繁栄の歴史があったことなど知らない世代が増えてきつつある静かな町です。あの賑やかだった平田本町も寂れ、わずか40年余りの間に住む人の価値観が変わり、今では「あの素晴らしい町並みが残っていれば、雲州平田は多くの観光客が訪れる活気ある町になっていたのかもしれない」という声が聞かれ、もう二度と取り戻すことが出来ない雲州平田の財産を失ってしまったことを悔む住民も多くなってきています。

■木綿街道地域

平田本町に隣接し、雲州平田の中心地を流れる平田船川運河沿いに「木綿街道」はあります。

この道は古くは「松江杵築往還」と呼ばれ、松江から出雲大社への参詣道として賑わった古道の一部で、江戸中期の佇まいや文化を今に残す貴重な地域です。町並みの各所に「切妻妻入り塗り家造り」の民家が残し、通りと運河をつなぐ小路・かけ出し(船着場)とともに木綿街道の歴史的景観を形成しており、江戸時代の佇まいを残す静かな町並みを楽しみに観光客が訪れる小さな町です。

13年前までは、「木綿街道」という名前もなく、隣接する平田本町周辺の都市開発からも外れ、老朽化した住宅が続く場所でした。周囲の人からは古く汚い家が続くところと認識され、住んでいる住民、特に若者などはその場所に暮らしていることを恥ずかしいとさえ思うような、地域に暮らす誇りが失われた、時代に取り残された町でした。

しかし、この町並みには平田本町が失くした雲州平田の財産が残っている、この町並みをたくさんの人に知ってもらいたいという思いを持つものが集まり、木綿街道の活動は始まりました。



2)活動の開始時期と活動の経緯

■活動のはじまり

木綿街道での活動が始まったのは2001年のことです。

江戸期の佇まいを残す町並みが存在するという事を沢山の人に知ってもらえるような活動はできないだろうか、ということが発端となり、「木綿街道」は歩みはじめました。

初めて企画したイベントは、2001年4月8日(日)「おちらと木綿街道」というイベント名で開催しました。「おちらと」は、出雲弁で「ゆっくりと」という意味です。平田船川沿いの片原町・新町区域の市道を歩行者天国にし、昔は、商店街であったこの地区で今も営業を続けている地酒醸造元、醤油醸造元そして数件の商店、民家の土間や軒下、空き店舗、空き家などを利用し、手仕事展や昔の写真展、フリーマーケット、特産品の販売、カフェの出店などを行い、平田船川では、川辺の景観を楽しむ遊覧船の運航や、酒蔵では酒蔵コンサートなどを企画しました。

このイベントは現在までの13年間、実行委員会のメンバーを少しずつ変えながらも、継続的に実施し木綿街道を代表するイベントとして毎年6000人以上のお客様に会場いただき、木綿街道の町並みの良さや地域に残る文化や歴史を多くの方に感じていただくとともに、町並み景観の保全の意義を広くアピールする場ともなっています。

現在、当たり前のように使われ、観光マップや各種メディアにも掲載される「木綿街道」という名称は昔からあったものではなく、このイベントの名称から派生し、この地域の愛称として定着したものです。

■木綿街道のまちづくりと木綿街道振興会

木綿街道のまちづくりの主体を担っているのが私達「木綿街道振興会」です。2004年4月に「木綿街道商業振興会」として街道内事業者により結成した会です。2001年に結成され木綿街道イベント実行委員会の主体となっていた「木綿街道の会」の会が2006年に活動を縮小したことに伴い、木綿街道イベントの開催主体を引き継ぎました。2010年には「木綿街道振興会」という名称に改めています。

「木綿街道振興会」は木綿街道まちづくり協定区域の住民で組織する「木綿街道まちづくり協議会」等の団体にも参画いただき、イベントに留まらず木綿街道における様々なまちづくりの主体となっています。

木綿街道のまちづくり活動は「おちらと木綿街道イベント」を行うことにより始まりましたが、開催を重ねるうちに「この町の存在を知ってもらう」だけでなく、町の佇まいを護り、文化や歴史を後世に伝えていかなければという思いが強くなり、イベントの開催だけではなく、様々な事業のアイデアを出し合いながら活動を進めるようになっていきました。また、木綿街道の歴史的文化的資源を活用することで、平田地域の活性化に繋げることは出来ないかという思いも生まれ、少しずつまちづくり活動の幅を広げていきました。

3)現在の活動状況 (景観形成の維持管理活動におけるオリジナリティ・工夫した点・苦労した点 など)

■木綿街道振興会の活動の目的

○歴史的な町並み景観を保存し後世に受け継ぐこと

○木綿街道の町並み景観・歴史・文化等の資源を活用し平田地域の活性化を図ること

この二つの目的の達成のために5つのテーマにそって活動をしています。

① 町並み景観の保全

街道各所の柿渋塗り、通りの清掃(空き家の窓掃除、草取り等)、雲洲平田船川の清掃(護岸清掃、藻刈り等)などの景観保護活動、木綿街道歴史建物調査の実施や町並み景観保全に関するシンポジウムの開催、町並み景観保全の啓発活動(地域の歴史の勉強会、町並み保存に



関する諸制度に関する勉強会・住民説明会)、先進地視察など

② 町並みの活用

木綿街道の起りとなった「おちらと木綿街道」をはじめ「節分イベント～もち街木綿街道～」や「木綿街道醸造まつり」など町並みを活用した大小様々なイベントの開催や、旧石橋酒造(木綿街道振興会事務所として利用)旧足立電気(カフェ兼オープンスペース「Cafe ことん」として 2013 年度中に開業予定)木綿屋(機織り体験場として利用)など空き店舗・空き家の活用



③ 次世代育成

小、中、高校の授業への協力(町並み見学、店舗や蔵の見学、醤油や酒など食文化継承の為の授業、木綿の歴史の授業、まちづくり活動についての授業など)や、まちづくりインターン生の受け入れ、全国からの大学生のワークショップ(cityswitchJapan)への協力、学生の研究テーマとしての木綿街道調査への協力、若年者会員募集と年会費減免など



④ 観光振興

観光まちなみガイドの実施(予約制ガイド、定時ガイド)、視察団体受け入れ、マップやパンフレットの制作、国土交通省が推進する夢街道ルネサンスへの登録と日本風景街道への参画など



⑤ 情報発信

木綿街道公式ホームページの製作・管理やSNSを活用した情報発信、各地への木綿街道のアピールや講演活動、記事の執筆など

5つのテーマに分けてはいるものの、これらの活動全てが①の「まちなみ景観の保全」に寄与するものに他なりません。

②町並みの活用・・・老朽化が進む建物は放置すれば廃墟化し、取り壊しに繋がります。修繕しながら活用することで町並み景観を維持することができます。

③次世代育成・・・若い世代に地域に暮らす誇りやまちづくりを引き継ぐ気持ちを育て、活動を長く継続させることで町並み景観を維持することができます。

④観光振興・・・観光客を受け入れることで商店が潤い、地域が活性化します。空き店舗に出店する人が現れることで活用されている建物の連続性が回復し、町並み景観を向上させることができます。また、住民それぞれが観光客に恥ずかしくないよう町をきれいにするという意識を持ち、景観の向上につなげることができます。

⑤情報発信・・・木綿街道の情報を密に発信することですべての活動が認知され、町並み景観保全の意義を広く問いかけることができます。

■活動を継続することの苦しみ

「木綿街道」が始まってから13年、様々な時期を経ながら活動を継続してきました。

長く続けていると楽しいことばかりではなく、真剣に取り組めば取り組むほど、周囲との関わりの中で様々な軋轢が生まれ、挫折や苦悩を乗り越えながらの活動でした。その苦悩の原点は、木綿街道内の住民である私たちと街道外の皆さんとの木綿街道への思いや関わり方の違い、また街道内の商業者である私たちと街道内の一般住民の皆さんとの温度差などであったと感じています。

「街道外の皆さんとの木綿街道への思いや関わり方の違い」とは、木綿街道を平田地域の宝として地域住民みんなで守っていきたいと考える私たちと、木綿街道のことは木綿街道内の住民でという街道外の考えとのギャップ、木綿街道を生活の場とし活動している私たちと木綿街道を自分自身の楽しみの場と捉え活動する街道外の団体とのギャップ

プ、そしてそこに暮らす私たちは楽しかろうが楽しくなかろうが木綿街道との関わりから身を引くことが出来ないのに対して、外から来た人は楽しくなければいとも容易く関わりを絶つことが出来るというスタンスの違いであったと思います。

また「街道内の一般の住民の皆さんとの温度差」とは、自分たちが暮らす町並みの歴史的価値についての理解の都合の差や、町並み景観を目的に観光客が訪れることが商業者でない一般の住民の直接的な利益にはつながらないということから生じたものではなかったでしょうか。

■住民意識の高まり

しかし、長年の絶え間ない地道な活動を通して、それら苦悩の原点であったものが少しずつ形を変え、理解が深まり、木綿街道を地域全体で守る宝として、住んでいる者も暮らし良く外から来た人も心癒される場所に、また街道内の一般の住民の方々も直接的な利益はなくてもその中に暮らすことに誇りを感じる場所に少しずつ近づいてきているのではないかと感じています。

そのような住民の町並み景観の保全に関する意識の高まりから、2008年には、住宅改修にあたって木綿街道の歴史的な景観を維持するべく「木綿街道まちづくり協定」を締結し、それを受けて行政により住宅のファサード部分の改修助成(2008年度～2012年度)が行われ、3ヶ年間で17棟が住民協定に沿った改修を実施しました。合わせて、カラー舗装、街路灯変更、電柱カバー設置等の修景も行われ、景観整備が進んでいます。

また、このような行政による大規模な景観整備だけではなく、木綿街道振興会を中心に住民による日常的な景観美化への取り組みが継続的に行われています。

例えば、通り沿いの自宅前に木綿を始めとする様々な花木の植木鉢等を置く、格子戸や塀に季節の花々を飾る、自宅前に小さなディスプレイをする、縁台を置き休憩場所にする、簾等で室外機をカバーする、木綿街道ののれんを設置するなど住民自らが日常的に景観を意識し、通りの美化に取り組んできています。

また、通りの清掃作業、船川の清掃作業、通り沿いの木部の保護と美化の為に柿渋塗り等も年数回、住民や関係団体、ボランティア等大勢が参加して実施しています。

■町並みの価値を証明する為の調査の実施

そうした中で私たちに芽生えたのが、町並みを形成する建物の価値を、ただ古風な雰囲気や風情があるというような感覚的なものではなく、学術的にも確たるものにしたいという思いです。

その思いの実現のために、2010年より鳥取環境大学に委託し、「木綿街道の歴史建物調査」を実施しています。平田の歴史から、木綿街道の建物の分布調査、特徴的な建物の詳細調査や特に文化財的な価値のある建物の科学的年代測定、小路・かけ出しについての調査、木綿街道外にも残る歴史的な建物等についても調査しました。

それに合わせ、2012年2月には文化庁や奈良文化財研究所などから文化財関係の有識者を招いてシンポジウムを開催し、今後の木綿街道の保全の方向性などについても評価と助言をいただきました。「木綿街道は文化財保護法における「重要伝統的建造物群保存地区」の選定に十分な価値を有する」との評価であり活動に取り組む勇気をいただいたところです。

資金不足等から年度を分けざるを得ず、3年間をかけて実施した調査は2012年度末に終了し、2013年度末の刊行に向けて報告書をまとめていただいているところです。この報告書が、木綿街道の歴史的文化的価値を内外に広くアピールし、木綿街道の町並み保全の機運を高め、行政の町並み保全の方針決定に寄与できればと期待しています。

4) 今後の活動方針 (活動の継続及び拡充や新しい試みなど、イベントやセールスポイント)

■空き家・空き店舗への対策を

木綿街道のような連続的な建物群によって形成される歴史的な町並み景観を維持していくにはそこに暮らす住民の意識が最も重要ですが、木綿街道の住民の景観美化意識は年々高まりを見せており、木綿街道という呼称を命名

してから13年が経過した現在、木綿街道の町並み景観は飛躍的に良質なものになっていることは間違いありません。

しかしその反面、空き家となり日常的な管理が難しくなっている建物も多く、所有者の管理の都合上、老朽化した空き家の取り壊しが行われるなど景観の連続性を失っていく部分もあります。すでに木綿街道振興会で借り受け、管理している空き家もありますが、街道内には清掃と簡単な修繕で活用できそうな空き家が点在しています。このような空き家の実態を把握し、取り壊しなどという取り返しのつかないことになる前に、家主の理解を得て、何らかの形で活用し建物を維持する手立てを打たなければならないと考えています。

■継続的な保存の制度の適用を

また、空き家ばかりでなく住民が暮らす民家も年々老朽化し改修が必要になっている建物も多いのですが、費用面や建築関係法令等の縛りの中で歴史的な町並みを残していくのが非常に困難な現状があり、町並み保存に関する継続的な制度の利用が必要になってきています。

町並み保存の為の目標は、文化庁の「重要伝統的建造群保存地区」選定を受けることです。「木綿街道程度の町並みでは、重伝建地区選定ほどの価値はない」との考え方があるのも事実です。しかし、重伝建地区選定は町並み保存にのみ意味を持つものではなく、選定による観光振興、地域振興に大きな意味があるという考え方になってきています。すなわち、そこに暮らし、町並みを守り続け、地域振興に取り組む意思を持った住民がいない場所は選定の意味がないのです。

2012年2月のシンポジウムの際に専門家から評価いただいたように、木綿街道に重伝建地区選定の可能性があるのなら、それに向かうべきと考えています。町並みの価値の評価に加えて、そこを守る私たちの活動を合わせて選定の評価を下していただきたいのです。

選定にむけては、町並みの中に文化財を増やすなど町並み全体の価値を向上させること、出雲市との選定に向けた協働と役割分担。住民の方々の重伝建地区選定に対する理解と協力が必須です。目標は高いですが、目標に少しずつでも近づけるように活動のプランを練っていかねばと考えています。

今後も木綿街道振興会が中心となり、木綿街道の町並み景観をより美しく魅力あるものにし、一度は失われかけた住民の誇りを再生し、誇りの再生が町並みや伝統文化の継承につながるように、継続的な活動に取り組み「木綿街道の町並み」が日本の誇りとなる景観のひとつとなるよう努力していきます。

3. その他（※用紙を加えてご記入下さい）

1)調査検討経費の用途（予定）	【記入について注意事項】 西暦表現で統一 お願いいたします
-----------------	-------------------------------------

■今後の「木綿街道」継続的な活動を推進するための方針策定費用。

前述のとおり、木綿街道のような連続的な建物群によって形成される歴史的な町並み景観を維持していくにはそこに暮らす住民の意識と活動への参加が最も重要です。幸運にも受賞させていただいた時には、調査検討経費は、木綿街道が全国的に見ても評価される誇れる地域であることを住民が認識し、継続的な活動をさらに推進できるよう、その方針づくりのための調査、検討のための費用として使わせていただきたいと思います。

具体には、

●空き家・空き店舗の実態調査と活用に向けての方針検討の費用

木綿屋や旧足立電気、旧石橋酒造など、すでに木綿街道振興会で清掃や管理している空き家もありますが、街道内にはまだ活用できそうな空き家が点在しています。しかし、外から見ただけでは空き家の中の様子や老朽化の度合いなどはわからず、また誰が現在の家主なのかよくわからない空き家もあります。近所の人に事情を聞くと、「家主が都会に住んでいてこちらの状況にあまり関心がない」「空き家内の荷物を片付けることが自分ではできない。また、人を

頼めば費用がかかる」「人に貸すには修繕をしなければならないが費用面に不安がある」「知らない人に貸すのは不安」「もしかしたら息子夫婦が老後に帰ってきて使うかもしれない」「中に仏壇があって、法事にだけ使う」等々、それぞれに事情があり、貸したいと思っている家主は、近所で聞く限りは今のところあまりないのが実情です。

この空き家を維持し、さらに活用し、町並みの賑わいを取り戻すことが今取り組むべき大きな課題の一つであると思っています。実際に市外や県外に住む家主に、まちづくりの現状や木綿街道振興会の活動等について直接会って話をすることが出来れば、恐らく家主の考え方を変えることが出来るのではないかと考えています。空き家を放置しておくことは家主にとっても決してプラスになることではないからです。

調査検討経費により、空き家調査、家主との交渉、清掃と修繕、活用に向けての検討、実際の活用という手順を、3年間かけて実現していけたらと思っています。まず1年目は空き家・空き店舗の場所、広さ、間取り、建物用途、老朽化の程度、最低限の修繕に掛る費用、家主の意向などを、専門家を交えて調査し、活用の可能性を検討したいと思います。2年目は、調査の結果、活用可能な物件を選んで、空き家の借用や最低限の修繕などについて家主と交渉、清掃作業、町並み保存の観点からの専門家のアドバイスを得て方針を決定し、3年目は実際の空き家の活用に向けて、景観保全に理解のある活用希望者とのマッチング、利用可能な補助金取得などを検討したいと思います。

●今後の木綿街道の活動を推進するための方針策定費用

上記の具体的な木綿街道の空き家・空き店舗の実態調査と検討を受けて、今後の木綿街道の活動を推進するための方針策定を行います。大学関係者や、建築士等の専門家を招いたシンポジウムやワークショップを開催し、木綿街道の住民やそれ以外の方々、行政とともに単なる現状の保全でなく、新たな街づくりの視点を持った方針を策定するための費用に使わせていただきたいと思います。

■調査検討経費の用途の内訳

	事業内容	費用
1年目	空家、空き店舗の実態調査(専門家に依頼)	300,000
	家主の意向調査(調査の為に旅費等含む)	100,000
	事業実施にかかる事務費、通信費など	100,000
	計	500,000
2年目	空家の利活用に関するシンポジウムの開催	200,000
	保存的修繕の方針、費用等の調査(専門家に依頼)	100,000
	家主との交渉(交渉の為に旅費等含む)	100,000
	事業実施にかかる事務費、通信費など	100,000
	計	500,000
3年目	空家の活用に関するワークショップとイベント開催	150,000
	木綿街道の町並み保全の方針策定(シンポジウム等)	250,000
	事業実施にかかる事務費、通信費など	100,000
	計	500,000
	総計	1,500,000

2)これまでの受賞歴	
2005 年度 しまね景観賞 優秀賞 まち・みどり部門 2010 年度 地域づくり総務大臣表彰 2011 年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣官房長官賞 2012 年度 しまね景観賞 景観づくり貢献賞	
3)当コンクールをどのように知ったか（新聞、自治体、住宅メーカー、〇〇からの紹介等）	
国土交通省中国地方整備局道路部よりの情報提供	